

広島別院だより

Vol.28
冬号真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会 発行

報恩講が勤まる

昨年十二月四・五日に亘り報恩講が勤められました。報恩講は親鸞聖人の三十三回忌以来、七十年間、東本願寺や全国の別院、寺院、家庭で毎年、勤められています。

この度の講師は芸備組西願寺（庄原市）住職寺川大雅師が務めました。以下、法話の抄録です。

● 荘厳の意味

報恩講などの仏事の時、仏前に華・香・灯などを供える。それらを莊厳（じょうごん）といい、それぞれ私たちに大切なことを教えている。

移ろいゆく仏華を見てはいのちの諸行無常を想い、香の薰りで教えが伝わる平等性に触れ、灯によって暗い迷いを破る教えによって安心が与えられる。たった三つの莊厳ではあるが、釈尊以来受け継がれた教えに遇う意味を表している。いわば、自分の手でしたことと来と私との深いご縁が結ばれていく。

莊厳とは、いのち・平等・安心という仏教が内包している教えに出遇うための表現なのである。



講師：寺川大雅師

子ども達による親鸞聖人御影（肖像画）が完成

昨夏、安芸南組子ども会で、子ども達による親鸞聖人の御影（肖像画）が製作されました。

パズル状になつた御影のピース一枚一枚を二十四人の子ども達が力を合わせて一所懸命に描き、カラフルで大きな御影が完成しました。

現在、大西道誠様からご寄進いただきました。ただいたパネルに入れ、別院本堂の入り口に展示中です。



広島別院団体参拝

左記の団体が団体参拝されました。お参りいただき、誠に有難うございました。

十二月十八日

東京教区東京四組
龍善寺様

真宗基礎講座 (第八回)

真宗基礎講座が十一月七日に開催されました。

講師の三明智彰先生は「承元の法難で越後に流された親鸞聖人を必死に生きる人々との出会いを通して、己の煩惱の深さをあらためて見つめ直していかれた」と話されました。



団扇影物（だんせんぼりもの）
本堂内陣の親鸞聖人と蓮如上人の御影の壇下などに飾る影物です。

この度、芸備組西願寺住職の寺川大雅様から団扇影物を、山陽教区門徒会副会長の大西道誠様から親鸞聖人御影（安芸南組子ども会製作）の保護パネルをご寄進いただきました。

御寄進に感謝 「団扇影物と御影保護パネル」

2月22日(土) 真宗基礎講座

-親鸞の生き方にたずねて-
(第2シーズン)

【講 師】 三明智彰 先生（九州大谷短期大学学長）

【日 程】 毎回 13:30～16:00 【会 費】 500 円

【次 回】 2020/4/11(土)

〈親鸞聖人のご生涯をたずね、浄土真宗の教えの基礎を学ぶ講座です。〉



3月23日(月) 春彼岸会

【講 師】 水野 元 先生（安芸北組 妙蓮寺住職）

【日 程】 14:00～勤行と法話 16:00 終了予定



＜彼岸とはさとりの世界。昼と夜の時間が等しくなるお彼岸の時節に、
かたよりのない仏様の教えを聞く法会です。〉

毎月5日 定例法話（ご令日の集い）

【講 師】 県内僧侶（月替わり）【日 程】 14:00～勤行と法話（15:00 終了予定）

〈広島別院開基 教如上人の御命日（毎月5日）に法話会があります。〉

法座・講座等のお知らせ

【編集室より】
道場樹

島東洋カープの梵英心選手のグローブには「邪見惰慢悪衆生」という親鸞聖人の言葉が刺繡されているそうだ。寺の住職を務める父上からカープ入団時に送られた言葉らしい。「人間の眼は煩惱により曇り、心としての歩みが止まる。だから謙虚に怠ることなく励め」という厳しいエールで入っているので、常に自分を正当化し驕りたかぶる。結果、人としての歩みが止まる。だから「人間の眼は煩惱により曇り」という厳しいエールである。

先日、別院仏具のおみがきに参加した。一見それほど汚れていたように見えないが、いることに気づかされる。皆で一所懸命に磨き上げたピカの仏具の輝きを見ると、清々しい気持ちになる。仏具は磨くほど輝く。

さて、私の心の曇りはどうであろうか。教えを聞くことで心磨かれ、いのちの輝きを放つか、それとも聞法されたり高ぶるのか。輝く仏具を見ながら考える。

（H・N）

真宗大谷派（東本願寺）

〒730-0044 広島市中区宝町 4-16

広島別院 明信院

Tel 082-241-5342（電話・FAX 共通）

東本願寺 広島別院

検索